

事 務 連 絡
令和4年3月29日

各都保健所長 殿

感染症対策部長

オミクロン株の特徴を踏まえた今後の濃厚接触者の特定及び
行動制限並びに積極的疫学調査の実施について

令和4年3月16日付厚生労働省新型コロナウイルス感染症対策推進本部事務連絡
「B.1.1.529系統（オミクロン株）が主流である間の当該株の特徴を踏まえた感染者の発生場所毎の濃厚接触者の特定及び行動制限並びに積極的疫学調査の実施について」に基づき、感染者の発生場所等における積極的疫学調査の実施、濃厚接触者の特定について下記の通り定めましたので、通知いたします。

つきましては、内容について関係機関に御周知いただくとともに、適切に御対応いただきますよう、お願い申し上げます。

記

- 1 東京都において実施するオミクロン株の特徴を踏まえた濃厚接触者の特定及び行動制限並びに積極的疫学調査の実施方法について

別紙のとおり

- 2 対応の切り替え基準日
令和4年3月29日（火曜日）から

問合せ先

感染症対策部防疫・情報管理課防疫担当

電 話 03-5320-4088

事 務 連 絡

令和4年3月31日

各市健康主管課長 様
(多摩府中保健所管内6市)

東京都多摩府中保健所長
田原 なるみ

オミクロン株の特徴を踏まえた濃厚接触者の特定等の実施方針について(協力依頼)

日頃より保健所事業に多大なるご協力を賜り感謝申し上げます。

令和4年3月29日付福祉保健局感染症対策部長事務連絡により、オミクロン株の特徴を踏まえた濃厚接触者の特定及び行動制限並びに積極的疫学調査の実施について方針が示されました。

管内では、新型コロナウイルス感染症新規陽性者の発生は、下げ止まり状態から再び上昇に転じる傾向が見受けられ、予断を許さない状況となっています。

このため、保健所では、管内各市・各地区医師会のご協力のもと、患者の健康観察の迅速な開始を第一優先に、全所体制での対応を継続しています。引き続き、地域の感染状況を踏まえ、感染拡大緊急体制を継続してまいりますので、下記についてご理解及びご協力をいただきますようお願いいたします。

記

- 1 保健所では、患者の健康観察を速やかに開始することを第一優先に、発生届受理後にシステムで体調を入力できるシステムを利用するためのMYHER-SYS URLや体調急変時の相談先などの内容を含むショートメールを送付することで患者への連絡を開始し、電話連絡は、体調不良者や重症化リスクを有する方を中心に行っています。
- 2 積極的疫学調査については、医療機関、高齢・障害者施設及びその関係者に重点化しています。
- 3 学校、保育所、幼稚園等の関係者で新型コロナ陽性者が確認された場合、3月29日付事務連絡において、「積極的疫学調査及び濃厚接触者の特定等については、既に構築された体制を用いて、効率的・効果的に実施する」とされていることから、令和4年1月19日付保健所長事務連絡「新型コロナウイルス感染症患者急増に伴う対応について(協力依頼) 3」によりご対応をお願いします。
- 4 事業所等については、3月29日付事務連絡1(5)及び(6)による対応としています。

東京都多摩府中保健所 企画調整課
小澤・鈴木
電話 042-362-2334

令和4年3月29日現在

東京都において実施するオミクロン株の特徴を踏まえた濃厚接触者の特定及び行動制限並びに積極的疫学調査の実施方法について

標記について、下記の通り実施するものとする。なお、積極的疫学調査及び濃厚接触者の特定等については、地域の実情を踏まえ、既に構築された体制を用いて効果的・効率的に実施すること。

記

1 感染者の発生場所・発生状況毎の濃厚接触者の特定と行動制限について

(1) 同一世帯内で感染者が発生した場合

ア 積極的疫学調査の実施・濃厚接触者の特定について

同一世帯内で感染者が発生した場合は、保健所等による積極的疫学調査を実施し、濃厚接触者の特定を実施する。なお、陽性者本人から濃厚接触者と思われる人に直接連絡すること等を持って特定したこととする 것도可能とする。

イ 濃厚接触者の行動制限について

同一世帯内で感染者が発生した場合、全ての同居者が濃厚接触者となり、その待機期間は、当該感染者の発症日（当該感染者が無症状（無症状病原体保有者）の場合は検体採取日）又は当該感染者の発症等により住居内で感染対策を講じた日のいずれか遅い方を0日目として、7日間（8日目解除）とする。

なお、抗原定性検査キットにより4日目と5日目に自費検査を行い、陰性が確認された場合には、5日目から待機を解除することを可能とする。また、この場合における解除の判断を個別に保健所に確認することは要しない。

ただし、いずれの場合も7日間が経過するまでは、検温など自身による健康状態の確認や、高齢者や基礎疾患を有する者等、感染した場合に重症化リスクの高い方（以下「ハイリスク者」という。）との接触やハイリスク者が多く入所・入院する高齢者・障害者（児）施設等※や医療機関（以下「ハイリスク施設」という。）への不要不急の訪問、感染リスクの高い場所の利用や会食等を避け、マスクを着用すること等の感染対策を求めるものとする。

また、同一世帯内の陽性者の療養終了までは家庭内外での感染対策に留意する。

※ 障害者（児）施設等には、障害児通所支援事業所のうち、児童発達支援事業所、医療型児童発達支援事業所及び放課後等デイサービス事業所、並びに救護施設が含まれる。

(2) ハイリスク施設で感染者が発生した場合

ア 陽性者発生時の報告について

施設内で陽性者が1名判明した時点で、発生届とは別に、保健所や区市町村主管部署等の関係部署に対し、各施設等から報告を実施する。

イ 積極的疫学調査及び濃厚接触者の特定について

保健所において調査を実施の上、濃厚接触者を特定する。調査の実施方法については、必要に応じて訪問するなど、地域の実情に応じ、保健所と施設が連携の上、効率的・効果的な対応を行うことを可能とする。

さらに、感染対策支援チームや東京都実地疫学調査チームの支援を得ることが可能であり、状況に応じて支援要請を行うこと。

ウ 濃厚接触者の行動制限について

濃厚接触者については、7日間の健康観察・行動制限を実施する(8日目解除)。当該濃厚接触者については、4日目及び5日目に実施した抗原定性検査キットによる自費検査の陰性結果をもって5日目に待機解除が可能である。また、この場合における解除の判断を個別に保健所に確認することは要しない。

ただし、いずれの場合も7日間が経過するまでは、ハイリスク者との接触やハイリスク施設への不要不急の訪問、感染リスクの高い場所の利用や会食等を避け、マスクを着用すること等の感染対策を求めるものとする。

また、2に記載する職種にあてはまる従事者が、当該職種に定められた要件及び留意事項を満たす場合、毎日の勤務前に自己検査で陰性が確認できれば、業務の継続を可能とする。

(3) 高齢者通所施設、障害者(児)通所施設((2)の施設を除く)等(訪問系サービスを含む。)で感染者が発生した場合

ア 陽性者発生時の報告について

保健所や区市町村主管部署等の関係部署に対し、各施設等から報告を実施する。

イ 積極的疫学調査及び濃厚接触者の特定について

保健所において調査を実施の上、濃厚接触者を特定する。調査の実施方法については、発生状況や地域の実態等を踏まえ、事業所において作成したリストを保健所が確認するなど、効率的・効果的な方法により実施する。

ウ 濃厚接触者の行動制限について

濃厚接触者については、7日間の健康観察・行動制限を実施する(8日目解除)。当該濃厚接触者については、4日目及び5日目に実施した抗原定性検査キットによる自費検査の陰性結果をもって5日目に待機解除が可能である。なお、この場合における解除の判断を個別に保健所に確認することは要しない。

ただし、いずれの場合も7日間が経過するまでは、ハイリスク者との接触やハイリスク施設への不要不急の訪問、感染リスクの高い場所の利用や会食等を避け、マスクを着用すること等の感染対策を求めるものとする。

また、2に記載する職種にあてはまる従事者が、当該職種に定められた要件及び留意

事項を満たす場合、毎日の勤務前に自己検査で陰性が確認できれば、業務の継続を可能とする。

(4) 保育所（地域型保育事業所及び認可外保育施設を含む）、幼稚園、認定こども園、小学校、義務教育学校、特別支援学校及び学童クラブ（以下「保育所等」という。）

ア 陽性者発生時の報告について

保健所や区市町村主管部署等の関係部署に対し、各施設等から報告を実施する。

イ 積極的疫学調査及び濃厚接触者の特定について

保健所において調査を実施の上、濃厚接触者を特定する。調査の実施方法については、発生状況や地域の実態等を踏まえ、事業所において作成したリストを保健所が確認するなど、効率的・効果的な方法により実施する。

ウ 濃厚接触者の行動制限について

濃厚接触者については、7日間の健康観察・行動制限を実施する（8日目解除）。当該濃厚接触者については、4日目及び5日目に実施した抗原定性検査キットによる自費検査の陰性結果をもって5日目に待機解除が可能である。なお、この場合における解除の判断を個別に保健所に確認することは要しない。

ただし、いずれの場合も7日間が経過するまでは、ハイリスク者との接触やハイリスク施設への不要不急の訪問、感染リスクの高い場所の利用や会食等を避け、マスクを着用すること等の感染対策を求めるものとする。

また、2に記載する職種にあてはまる従事者が、当該職種に定められた要件及び留意事項を満たす場合、毎日の勤務前に自己検査で陰性が確認できれば、業務の継続を可能とする。

(5) 上記（2）から（4）以外の施設（以下「事業所等」という。）について

ア 積極的疫学調査及び濃厚接触者の特定について

保健所での積極的疫学調査及び濃厚接触者の特定は実施しない。

イ 陽性者発生時の対応について

事業所等において陽性者が発生した場合に、原則保健所への連絡は行わない。

ただし、陽性者が複数名発生するなど、施設内において感染が拡大していると考えられる場合、保健所に感染防止対策等について相談することは可能とする。

また、事業所等において5名以上発生した場合等、必要に応じ、保健所等の判断により積極的疫学調査を実施する。

ウ 陽性者と接触があった場合の対応について

事業所等で感染者と接触があったことのみを理由として出勤を含む外出を制限する必要はない。陽性者と事業所等内において接触があったと考えられる場合については、以下の①から③までの対応を実施する。

- ① 事業所等で感染者と接触のあった者は、接触のあった最後の日から一定の期間（目安として7日間）はハイリスク者との接触やハイリスク施設への訪問、不特定多数の者が集まる飲食や大規模イベントの参加等の感染リスクの高い行動を控える

るよう、事務所内に周知すること。

- ② 事業所等で感染者と接触があった者のうち、会話の際にマスクを着用していないなど、感染対策を行わずに飲食を共にしたもの等は、5日間の外出自粛や5日目に自主的な検査実施を実施する。

この場合、感染拡大防止対策については接触者が自主的に行うことを基本とする。

- ③ ①、②いずれの場合であっても、症状がある場合には速やかに医療機関を受診するよう促す。

エ 「事業所等」外で陽性者と接触があった場合の対応について

家族や友人等、「事業所等」外の要因で陽性者と接触した場合は、当該従業者は濃厚接触者としての対応が必要となる。その場合は行動制限については、(1)イ又は(6)イに基づき実施する。

オ その他

感染状況等に応じて、検温など従事者自身による健康状態の確認、ハイリスク者との接触、ハイリスク施設への訪問、感染リスクの高い場所の利用や会食等を避け、マスクを着用すること等の感染対策を求める。

(6) (1) から (5) までの場所以外で感染者が発生した場合

ア 積極的疫学調査の実施・濃厚接触者の特定について

(1) から (5) までの場所以外で感染者が発生した場合は、保健所等による積極的疫学調査を実施し、濃厚接触者を特定する。なお、陽性者本人から濃厚接触者と思われる人に直接連絡する等を持って特定したことも可能とする。

イ 濃厚接触者の行動制限について

同一世帯内、職場等以外で感染者と接触した場合の待機期間は当該感染者との最終接触日を0日目として、7日間(8日目解除)とする。

なお、抗原定性検査キットにより4日目と5日目に自費検査を行い、陰性が確認された場合には、5日目から待機解除が可能となる。また、この場合における解除の判断を個別に保健所に確認することは要しない。

ただし、いずれの場合も7日間が経過するまでは、検温など自身による健康状態の確認や、ハイリスク者との接触やハイリスク施設への不要不急の訪問、感染リスクの高い場所の利用や会食等を避け、マスクを着用すること等の感染対策を求めるものとする。

2 各職種における待機期間中の業務従事継続の要件及び留意事項について

(1) 医療従事者

医療従事者については、陽性者との接触日を0日とし、4日目と5日目に自費検査を行い、陰性であった場合には、5日目から待機を解除すること、更にワクチンを3回目接種済みである等、要件及び留意事項を満たす限りにおいて、待機期間中に業務に従事すること(不要不急の外出に当たらない)が可能となる。

【要件】

- ア 他の医療従事者による代替が困難な医療従事者であること。
- イ 新型コロナウイルスワクチンの3回目接種を実施済みで、3回目接種後14日間経過した後（ただし、2回目接種から6か月以上経過していない場合には、2回接種済みで、2回目の接種後14日間経過した後でも可）に、新型コロナウイルス感染症患者と濃厚接触があり、濃厚接触者と認定された者であること。
- ウ 無症状であり、毎日業務前に核酸検出検査又は抗原定量検査（やむを得ない場合は、抗原定性検査キット）により検査を行い陰性が確認されていること。
- エ 濃厚接触者である当該医療従事者の業務を、所属の管理者が了解していること。

【留意事項】

- ア 感染した場合にリスクが高い患者に対する医療に際しては、格段の配慮を行うこと。
- イ 基本的な感染対策を継続すること。
- ウ できる限り、不要不急の外出を控え、通勤時の公共交通機関の利用を避けること。
- エ 家庭内に感染者が療養している場合は、当該者との濃厚接触を避ける対策を講じること。
- オ 管理者は、当該濃厚接触者のみならず周囲の医療従事者及び患者の健康観察を行うこと。
- カ 検査期間は最終曝露日から14日間であること。（オミクロン株の濃厚接触者の場合は、最終曝露日から5日間、なお、その場合であっても、7日間が経過するまでは、検温など自身による健康状態の確認や、リスクの高い場所の利用や会食等を避けること等の感染対策を求めること。）

【備考】

集中的検査の実施施設においては、濃厚接触者となった職員の待機期間の解除の判断のための検査（4日目と5日目）及び待機期間中に業務に従事するため、毎日業務開始前に実施する陰性を確認するための検査に、集中的・定期的検査に使用する検査キットを活用できることとする。本検査は、集中的検査の取扱いとなる。

【関連通知】

令和3年8月13日付国通知（令和4年3月16日一部改正）

「医療従事者である濃厚接触者に対する外出自粛要請への対応について」

<https://www.mhlw.go.jp/content/000913724.pdf>

(2) 介護従事者

介護従事者については、陽性者との接触日を0日とし、4日目と5日目に自費検査を行い、陰性であった場合には、5日目から待機を解除すること、更にワクチンを3回目接種済みである等、要件及び留意事項を満たす限りにおいて、待機期間中に業務に従事すること（不要不急の外出に当たらない）が可能となる。

【要件】

- ア 新型コロナウイルス感染症患者又は濃厚接触者が入所している高齢者施設等であ

って外部からの応援職員の確保が困難な施設に従事する介護従事者であること。

イ 他の介護従事者による代替が困難な介護従事者であること。

ウ 新型コロナウイルスワクチンの3回目接種を実施済みで、3回目接種後14日間経過した後（ただし、2回目接種から6か月以上経過していないために3回目接種を実施していない場合には、2回接種済みで、2回目の接種後14日間経過した後でも可）に、新型コロナウイルス感染症患者と濃厚接触があり、濃厚接触者と認定された者であること。

エ 無症状であり、毎日業務前に核酸検出検査又は抗原定量検査（当該検査による実施が困難である場合は、抗原定性検査キットも可）により検査を行い、陰性が確認されていること。

オ 濃厚接触者である当該介護従事者の業務を、所属の管理者が了解していること。

カ 保健所等により、以下を施設として実施する体制が確認されていること。

- ・ 当該介護従事者の健康状態（無症状であること等）の確認
- ・ 当該介護従事者に係る適正な検査（検体採取・結果判定、検査キットの確保等）
- ・ 施設内の感染拡大を防ぐための対策（防護具の着脱、ゾーニング、衛生管理等）

【留意事項】

ア 感染した場合にリスクが高い入所者に対する介護に際しては、格段の配慮を行うこと。

イ 当該介護従事者が感染源にならないよう、業務内容を確認し、基本的な感染対策を継続すること（マスクの着用及び手指衛生等に加え、処置時における標準予防策の徹底）。

ウ できる限り、不要不急の外出を控え、通勤時の公共交通機関の利用を避けること。

エ 家庭内に感染者が療養している場合は、当該者との濃厚接触を避ける対策を講じること。

オ 当該高齢者施設等の管理者は、当該濃厚接触者を含む関係する介護従事者及び担当する入所者の健康観察を行い、当該濃厚接触者を介する新型コロナウイルス感染症発生していないかの把握を行うこと。

カ 検査期間は最終曝露日（陽性者との接触等）から5日間に陰性が確認されるまでとする。なお、7日間が経過するまでは、検温など自身による健康状態の確認や、リスクの高い場所の利用や会食等を避けること、マスク着用等の感染対策を求めること。

【備考】

集中的検査の実施施設においては、濃厚接触者となった職員の待機期間の解除の判断のための検査（4日目と5日目）及び待機期間中に業務に従事するため、毎日業務開始前に実施する陰性を確認するための検査に、集中的・定期的検査に使用する検査キットを活用できることとしている。本検査は、集中的検査の取扱いとなる。

【関連通知】

令和4年3月16日付国通知

「介護従事者である濃厚接触者に対する外出自粛要請への対応について」

(3) 障害者支援施設等の従事者

障害者支援施設等の従事者については、陽性者との接触日を0日とし、4日目と5日目に自費検査を行い、陰性であった場合には、5日目から待機を解除すること、更にワクチンを3回目接種済みである等、要件及び留意事項を満たす限りにおいて、待機期間中に業務に従事すること（不要不急の外出に当たらない）が可能となる。

【要件】

- ア 次のいずれかに該当する施設・事業所であって、外部からの応援職員の確保が困難な施設・事業所の従事者であること。
- ・新型コロナウイルス感染症患者又は濃厚接触者が入所等している障害者支援施設等
 - ・従事者が濃厚接触者となった障害児通所支援事業所
- イ 他の従事者による代替が困難な従事者であること。
- ウ 新型コロナウイルスワクチンの3回目接種を実施済みで、3回目接種後14日間経過した後（ただし、2回目接種から6か月以上経過していない場合には、2回接種済みで、2回目の接種後14日間経過した後でも可）に、新型コロナウイルス感染症患者と濃厚接触があり、濃厚接触者と認定された者であること。
- エ 無症状であり、毎日業務前に核酸検出検査又は抗原定量検査（当該検査による実施が困難である場合は、抗原定性検査キットも可）により検査を行い、陰性が確認されていること。
- オ 濃厚接触者である当該従事者の業務を、所属の管理者が了解していること。
- カ 保健所等により、以下を事業所として実施する体制が確認されていること。
- ・当該従事者の健康状態（無症状であること等）の確認
 - ・当該従事者に係る適正な検査（検体採取・結果判定、検査キットの確保等）
 - ・施設内の感染拡大を防ぐための対策（防護具の着脱、ゾーニング、衛生管理等）
- （※）障害児通所支援事業所についてはアからオまでの要件を満たすことで、本取扱を行うことも可能であること。ただし、この場合においても、他の従事者による代替が困難な従事者に限る運用を徹底するとともに、基本的な感染対策を徹底するなど、感染拡大防止に十分に留意しながら運用すべきものであること。

【留意事項】

- ア 高齢の障害者や基礎疾患を有する障害児者等、感染した場合にリスクが高い入所者・利用者に対する支援に際しては、格段の配慮を行うこと。
- イ 当該従事者が感染源にならないよう、業務内容を確認し、基本的な感染対策を継続すること（マスクの着用及び手指衛生等に加え、処置時における標準予防策の徹底）。
- ウ 引き続き、不要不急の外出はできる限り控え、通勤時の公共交通機関の利用をできる限り避けること。
- エ 家庭内に感染者が療養している場合は、当該者との濃厚接触を避ける対策を講じること。

オ 当該障害者支援施設等の管理者は、当該濃厚接触者を含む関係する従事者及び担当する入所者等の健康観察を行い、当該濃厚接触者が媒介となる新型コロナウイルス感染症患者が発生していないかの把握を行うこと。

カ 当該障害者支援施設等において新型コロナウイルスワクチン 3 回目接種を実施していない場合は、速やかにその実施に向けて協力医療機関や市町村と連絡調整を行うこと。

キ 検査期間は、最終曝露日（陽性者との接触等）から5日目に陰性が確認されるまでとする。なお、7日目が経過するまでは、検温など自身による健康状態の確認や、リスクの高い場所の利用や会食等を避けること、マスクを着用すること等の感染対策を求めること。

【備考】

集中的検査の実施施設においては、濃厚接触者となった職員の待機期間の解除の判断のための検査（4日目と5日目）及び待機期間中に業務に従事するため、毎日業務開始前に実施する陰性を確認するための検査に、集中的・定期的検査に使用する検査キットを活用できることとしている。本検査は、集中的検査の取扱いとなる。

【関連通知】

令和4年3月16日付国通知

「障害者支援施設等の従事者である濃厚接触者に対する外出自粛要請への対応について」

<https://www.mhlw.go.jp/content/000913995.pdf>

（4）保育所等の職員

保育所等の職員については、陽性者との接触日を0日とし、4日目と5日目に自費検査を行い、陰性であった場合には、5日目から待機を解除すること、更にワクチンを3回目接種済みである等、要件及び留意事項を満たす限りにおいて、待機期間中に業務に従事すること（不要不急の外出に当たらない）が可能となる。

【要件】

ア 他の職員による代替が困難な職員であること。

イ 新型コロナウイルスワクチンの3回目接種を実施済みで、3回目接種後14日間経過した後（ただし、2回目接種から6か月以上経過していない場合には、2回接種済みで、2回目の接種後14日間経過した後でも可）に、新型コロナウイルス感染症患者と濃厚接触があり、濃厚接触者と認定された者であること。

ウ 無症状であり、毎日業務前に核酸検出検査又は抗原定量検査（当該検査による実施が困難な場合は、抗原定性検査キット）により検査を行い、陰性が確認されていること。

エ 濃厚接触者である当該職員の業務を、施設長、園長及び校長等（以下「施設長等」という。）の管理者が了解していること。

【留意事項】

ア 当該職員が感染源にならないよう、業務内容を確認し、基本的な感染対策を継続すること（マスクの着用や手洗い等により手指を清潔に保つことなどの徹底）。

- イ 引き続き、不要不急の外出はできる限り控え、通勤時の公共交通機関の利用をできる限り避けること。
- ウ 当該保育所等の施設長等の管理者は、当該濃厚接触者を含む関係する職員及び利用児童等の健康観察を行い、当該濃厚接触者を介した新型コロナウイルス感染症患者が発生していないかの把握を行うこと。
- エ 検査期間は、最終曝露日（陽性者との接触等）から5日目に陰性が確認されるまでとする。なお、7日間が経過するまでは、検温など自身による健康状態の確認や、リスクの高い場所の利用や会食等を避けること、マスクを着用すること等の感染対策を求めること。

【備考】

集中的検査の実施施設においては、濃厚接触者となった職員の待機期間の解除の判断のための検査（4日目と5日目）及び待機期間中に業務に従事するため、毎日業務開始前に実施する陰性を確認するための検査に、集中的・定期的検査に使用する検査キットを活用できることとする。本検査は、集中的検査の取扱いとなる。

【関連通知】

令和4年3月16日付国通知

「保育所、幼稚園、小学校等の職員である濃厚接触者に対する外出自粛要請への対応について」

<https://www.mhlw.go.jp/content/000913993.pdf>

東京都 PCR 等検査無料化事業
実施報告書

実施期間：2022 年 2 月 21 日～3 月 18 日 21 日間

検体採取場所：東京農工大学

検査実施場所：PSS 新宿ラボラトリー

2022 年 3 月 26 日

プレシジョン・システム・サイエンス株式会社

1. 要約

2022年2月21日～3月18日のうちの21日、検体採取を東京農工大学 小金井キャンパス内で、PCR検査をPSS新宿ラボラトリーで行い、東京都PCR等検査無料化事業を受託した。

稼働日	21日
総検体数	1200件
1日当たりの検体数平均	57件
検体数 max	80件
検体数 min	33件
陽性検体数	96件
陽性率	8%
再検査数	30件

- ・稼働日21日でのべ1200検体、1日平均57件の検査を受託した。
- ・期間を通じての陽性率は8%となった。

2. 背景

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の原因ウイルスである SARS-CoV-2 の PCR 検査は、感染者の特定・隔離と治療の判定に用いられ、きわめて重要なツールとなっている。COVID-19 の検査は、現在、遺伝子検査（リアルタイム PCR、LAMP 法等による遺伝子検査）、抗原検査（定性、定量）など数種類の検査方法が実施されているが、その中で最も確実に感染者を見つけ出すことができる検査が PCR 法である。さらにリアルタイム PCR 法は、PCR の増幅量を専用の装置を用いてリアルタイムでモニターし解析する方法であり、迅速性と定量性に優れている。感染の可能性の高い疑わしい症状のある方や濃厚接触者の方に対してできるだけ速やかに検査を行い、陽性者を見つけることで周囲への感染予防対策を十分に実施することが可能になる。

我々は、以前より重篤感染症蔓延防止のために全国的な検査施設配備の必要性をメーカーの立場から提案してきており、そのモデルケースとして 2021 年 10 月 11 日に衛生検査所登録番号を取得した PSS 新宿ラボラトリーを開設した。医療機器である全自動 PCR 検査装置ジーンリードエイト及びエリート インジェニアスを設置し、自動化システムの合理性を実証し、「いつでも、どこでも、どなたでも」安全で正確な PCR 検査を受けることができる体制を整えてきた。

3. 実施経緯

オミクロン株の感染が拡大し始めたことをきっかけに、2021 年 12 月 25 日から東京都の PCR 等検査無料化事業が開始された。我々は PSS 新宿ラボラトリーを実稼働し、無料検査を受託するため、東京都 PCR 等検査無料化事業の検査事業者として登録申請を行った。

[PCR 等検査無料化事業 東京都福祉保健局 \(tokyo.lg.jp\)](https://www.tokyo.lg.jp/pcr/)

検体採取場所は、東京農工大学小金井キャンパス内に設置させていただいた。

東京都から検査事業者として承認いただいた後、2022 年 2 月 18 日に本件実施について、東京

農工大学、小金井市、PSS から同時にプレスリリースを行った。

[東京都 PCR 等検査無料化事業者登録及び東京農工大学での検体採取所の開設に関しまして \(xj-storage.jp\)](https://www.xj-storage.jp)

以下に、東京都 PCR 等検査無料化事業の実施方法及び結果を報告する。

4. 方法

(1) 検体採取場所

国立大学法人東京農工大学 小金井キャンパス内

「旧次世代モバイル用表示材料共同研究センター」(東京都小金井市中町 2-24-16)

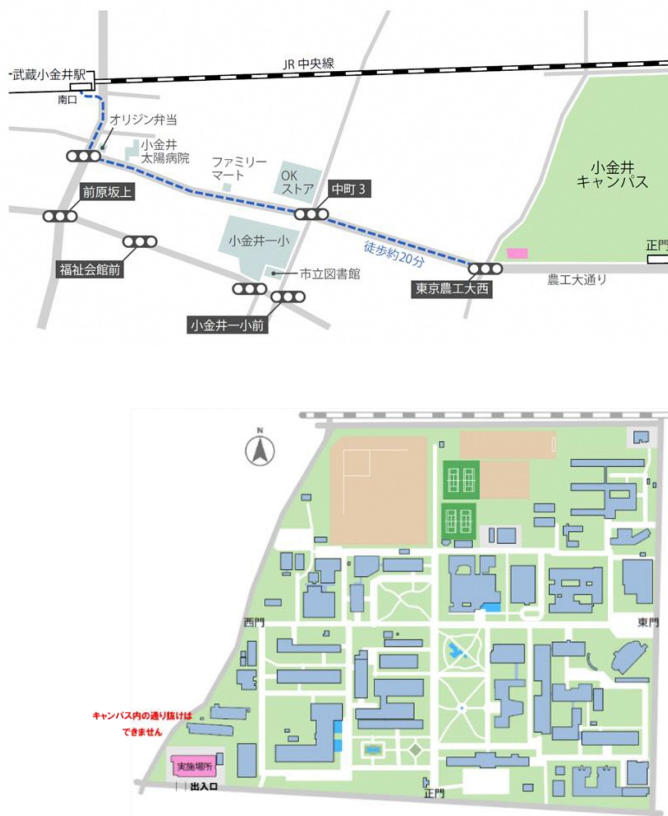


図 1. 検体採取場所地図

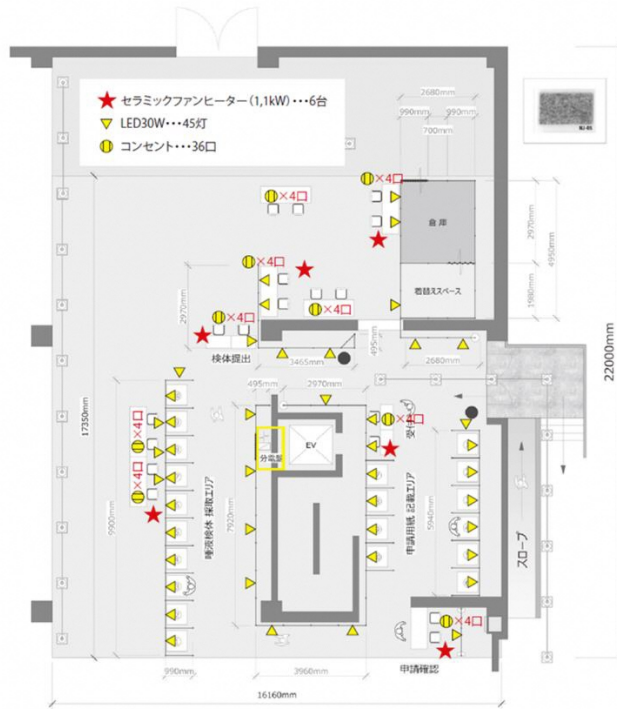


図 2. 検体採取所 見取り図



図 3. 検体採取所 唾液採取エリア



(2) 実施期間

2/21 (月) ~ 3/18 (金) 21 日間 / 休み (2/25(金)、2/28(月)、3/7(月)、3/12(土)、3/14(月))
 AM9:00-11:30 (午前の部) / PM1:30-3:30 (午後の部)

(3) 検体採取及び運搬方法

受付、申込書記載内容確認、本人確認後、唾液サンプルコレクションキット (図 4) を用いて、唾液を 1~2mL 採取し、バーコードを貼っていただく。検体受領後、検体搬送用ボックスに入れ、バイク便で PSS 新宿ラボラトリーへ運んだ。



図 4. 唾液サンプルコレクションキット

(4) 検査方法

検体受領後、PSS 新宿ラボラトリーの「測定標準作業書」に則り、PCR 検査を行った。

<使用装置> PSS 社製全自動 PCR 検査装置

- ・エリート インジーニアス (製品コード：A2604)
- ・ジーンリード エイト (製品コード：A2710)

核酸抽出から増幅、判定までを全自動で実施することができる。

<使用試薬>

- ・核酸抽出試薬キット

エリート インジーニアス用：ELITe InGenius SP 200 (PSS 製品コード：E1301)

ジーンリード エイト用：MagDEA Dx SV (PSS 製品コード：E1300)

- ・エリート MGB SARS-CoV-2 ポジティブコントロール (PSS 製品コード：E1341)

- ・検出試薬：エリート MGB SARS-CoV-2 PCR 検出キット (製品コード：E1340)

検出対象遺伝子：RdRp 遺伝子、ORF8 遺伝子、Internal Control (RNaseP)

<機器消耗品>

エリート インジーニアス用

①ELITe InGenius SP200 Consumable Set (PSS 製品コード：F2119)

②ELITe InGenius PCR Cassette (PSS 製品コード：F2122)

③300μL ユニバーサルフィットマキシマムリカバリー フィルター付きチップ ラック入り (PSS 製品コード：F2133)

④Sarstedt 2.0 mL 自立型スクリュウキャップマイクロチューブ (Sarstedt Ref. 72.694.005)

⑤ELITe InGenius Waste Box (PSS 製品コード：F2102)

ジーンリード エイト用

①geneLEAD VIII Consumable Set (PSS 製品コード：F8900)

②geneLEAD VIII PCR Reaction Cassette Set (PSS 製品コード：F8840)

③geneLEAD VIII PCR Reagent Cassette Set (製品コード：F8820)

< 検体処理作業 >

唾液採取量 約 2mL + 不活化液 約 1mL の状態でラボに搬入される。

PBS 1mL 添加を添加し、遠心後 200 μ L をエリート インジェニアスまたはジーンリード
 エイトにセットし、核酸抽出からリアルタイム PCR まで全自動で実施する。

⇒ 200 μ L の検体から 100 μ L に抽出され、このうちの 10 μ L を PCR へ供している。

唾液原液 10 μ L が PCR に供されていることになる。

< 結果判定 >

結果は装置ソフト上で自動判定される。

RdRp 遺伝子、ORF8 遺伝子の両方あるいは一方の RNA が検出された場合、陽性と判定する。

Ct \geq 40 で 1 遺伝子のみの検出された場合は、再検査とする。

5. 結果及び考察

表 1. 本事業まとめ

稼働日	21 日
総検体数	1200 件
1 日当たりの検体数平均	57 件
検体数 max	80 件
検体数 min	33 件
陽性検体数	96 件
陽性率	8%
再検査数	30 件

- ・稼働日 21 日でのべ 1200 検体、1 日平均 57 件の検査を受託することができた。
- ・期間を通じての陽性率は 8% となり、東京都 PCR 等検査無料化事業全体の数値（約 6%）より高い数値となった。弊社装置内で実施されるウイルス RNA の抽出精製により、ウイルスの有無を確実に捉えられているものと考えている。
- ・受検査者はのべ 1200 名（男性 609 名 / 女性 591 名）であり、男女差は少なかった。
- ・再検査となった 30 件は、その後の検査によりいずれも陰性となった。

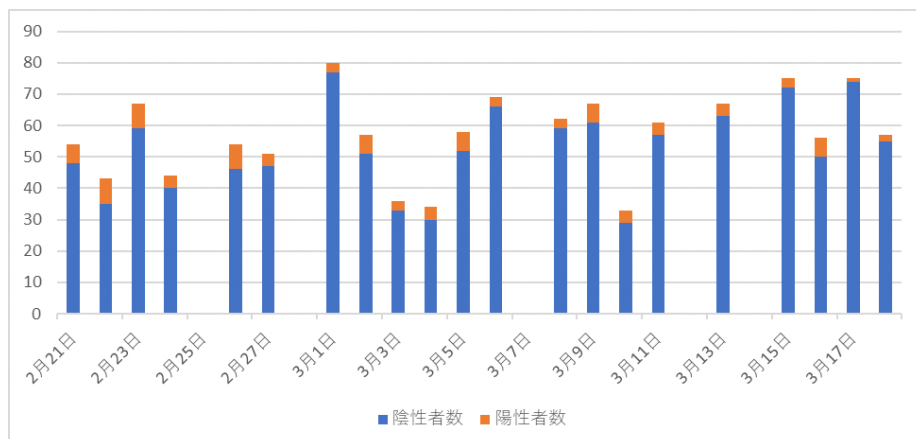


図 5. 陰性者数及び陽性者数

(2/25(金)、2/28(月)、3/7(月)、3/12(土)、3/14(月) 検体採取場所休み)

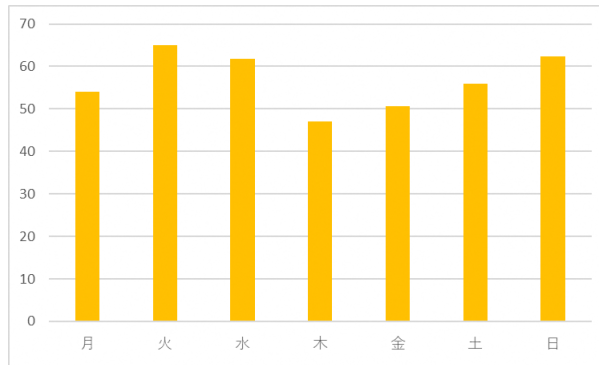


図 6. 曜日ごとの平均受託数

・期間中、月曜日稼働は1日だけであった。このため、採取場所休日明けの火曜日に受託数が増えたものと予想される。

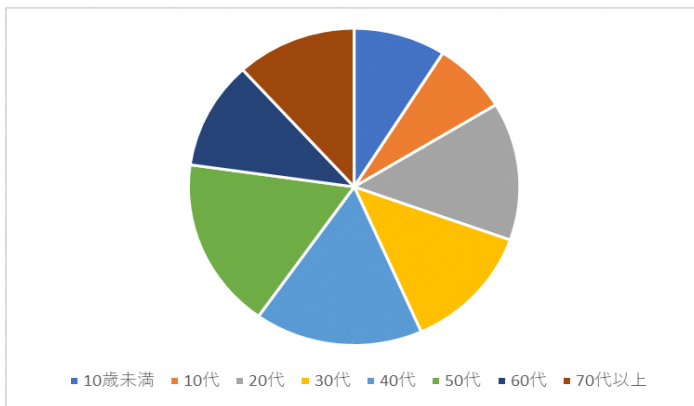


図 7. 受検査者の年齢層割合

・受検査者の年齢層としては比較的40代、50代が多かった。

10歳未満	9.0%
10代	7.3%
20代	14.1%
30代	12.9%
40代	16.4%
50代	17.4%
60代	11.0%
70代以上	11.8%

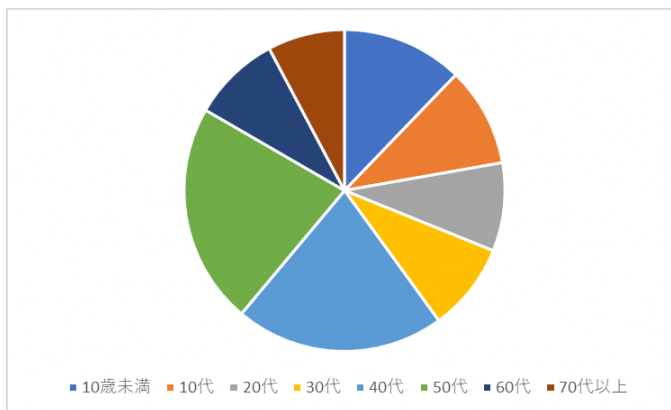


図 8. 陽性者の年齢層割合

・陽性者は40代、50代に多く見られた。

10歳未満	12.2%
10代	10.0%
20代	8.9%
30代	8.9%
40代	21.1%
50代	22.2%
60代	8.9%
70代以上	7.8%

表 2. 受検査者の陽性割合

10 歳未満	9.3%
10 代	11.4%
20 代	4.7%
30 代	5.2%
40 代	9.1%
50 代	10.0%
60 代	6.1%
70 代以上	5.0%
全体陽性率	8.0%

- ・各年代の受検査者数に対する陽性者の割合は、10 歳未満、10 代、40 代、50 代で多いことがわかる。
- ・陽性者の中に、お名前と年代からご家族と思われる方々が 10 組（計 11 人）いらっしゃったことから、家庭内感染が予想される。

6. 謝辞

今回の活動の全般に渡り、お力添えくださいました東京農工大学教授養王田正文先生に心より感謝申し上げます。さらに東京都議会議員 漢人あきこ様、小金井市議会議員 坂井えつ子様、東京農工大学学長 千葉一裕先生、東京農工大学小金井地区事務部会計室長 竹下大輔様、小金井市健康課長 石原弘一様、小金井市広報秘書課長 廣田様をはじめ、多くの方々に多大なご尽力を賜りました。御礼申し上げます。

今回の活動において、弊社は初めて一般の方々の検体を直接お預かりし、自社製品及び自社検査施設を使用し、検査結果をお返しするという機会を得ることができました。正確な PCR 検査を実施することにより、社会貢献できるということを体感することができました。このような機会をいただくことができましたこと、数多くの方々のご協力の賜物と存じます。本活動にご協力いただいた皆様へ心より感謝申し上げます。

以上

小金井市

小金井市福祉保健部

新型コロナウイルス感染症対策担当

【新型コロナウイルスワクチン接種】

10歳の児童に誤って大人用ワクチンを接種

市内の医療機関において、新型コロナウイルスワクチンの「誤り接種」が発生しました。状況及び現在の対応は下記のとおりです。

「誤り接種」の状況

- ① 発生日時 令和4年3月30日（水）
- ② 発生場所 市内の指定医療機関
※ファイザー社製ワクチン（12歳以上用）を接種する指定医療機関。当該医療機関では小児接種（5～11歳接種）は行っていない。
- ③ 被接種者 満10歳の児童
- ④ 原因 予約・外来窓口・予診時における年齢確認の不徹底
※本人・保護者の帰宅後に発覚

対応状況

- ① ご本人の状況 現在に至るまで、特に異常なく元気とのこと
- ② 対応経過 発覚後すぐに当該医療機関が電話で謝罪・説明
その上で、ご自宅に伺って謝罪・説明し、健康状態を確認
万一来院に備えて経過観察に入る。
東京都福祉保健局にも市から一報を入れる（正式報告は今後）。
※週末も含めて経過観察を続ける。
- ③ 再発防止等 3月30日中に全指定医療機関に年齢確認の徹底を通知
さらに詳しい状況を当該医療機関に聴取の上、今後、必要に応じて追加の再発防止策を行う方針

【本件に対する問合せ先】

小金井市福祉保健部新型コロナウイルス感染症対策担当課長

（電話）042-321-5168